

東京都私立幼稚園協会



創立二十周年をむかえて

笠原秀定

本年は東京都私立幼稚園協会の創立二十周年を迎えることとなつた。たつて見ると、随分早いものだという氣もするが、過去をふりかえつて見ると、其の間の色々な事が、次から次と走馬灯のように思い出されてくる。

協会が現在のように強力なものになるまでには、先覚者たちの非常な苦労と、努力のたまものであることを忘れる出来ない。

日本に於ける幼稚園の創設は、明治九年に当時の東京女子師範学校（現在のお茶の水女子大学）に附属されて出来たので、本年はち

ようど八十周年になるわけであるが、明治十二年には、私立幼稚園が東京の芝公園に設立されたのである。初期の頃は何といつても、国公立が多く、明治四十五年の全国の統計を見ても、官公立二二四園に対し、私立は一〇九園に過ぎなかつた。それまでは私立幼稚園はあまり発達しなかつたようである。それには色々原因もあるうが、幼児教育の重要性が、一般的に認識されなかつたことと、幼稚園は一部有産階級の家庭の子女の就学前の教育の如く感ぜられ、貴族的体臭が強かつたためであろう。又教育行政の面でも、幼稚園は

傍系の教育機関として、まま子扱いをされ、教育局でも余り指導もされず、放りばなしのような状態で、各々が独自の道を歩んでいたというのが実状であったためだらう。

然し大正十五年には始めて、幼稚園会なるものが公布され、幼稚園に初めて法令が出来た。東京都の私立幼稚園も、昭和になってから、段々その数を増して来て百余園の施設が出来、昭和十年頃には、急激に増加し、一躍その倍に達し、二百園を超える数となつたのである。従つて東京都の保育界に占める私立幼稚園の地位は、数の上から実に強大なものとなつたのである、然しながら、各園の間に於ては、何の連絡もなく、又親睦の機関もなく、個々ばらばらの存在であったので、心ある者は、連絡の機関を作るためによりより話し合いをしていたのである。

私立幼稚園の園長には、宗教家あり、学者あり、政治家あり、夫夫・城の主が揃つており、各々おえらい方がいたので、心を一つにして團結することは仲々至難なことであつた。

然し連絡機関の必要を感じる者も、段々増加し、その意慾も高まり、いよいよ昭和十二年にはその機も熟し、連盟結成の相談会がもたれ、翌年二月四日には、東京府私立幼稚園連盟創立委員会が本所幼稚園で開かれ、同三月一日を期して、お茶の水の佐藤生活館で結成式をあげ、長い間の待望であつた団体結成の孤々の声をあげたわけである。その時の会長は三戸敬光氏、副会長は和田実氏、常任理事には内山憲尚氏、山田勇氏がなつた。以来後員の努力により断次

発展し、昭和十七年には三百余園が更に強き團結の下に、名称も東京都私立幼稚園と改め、会長には、東京都の当時の学務部長加藤初夫が推薦され、幼児教育の向上のため邁進することとなつた。

思えば實に長き胎動であり、輝やかしき誕生であつた、当時の先覚者の努力は、なみ大底のことではなく、その業績は、実に大きなものがある。何年に於ても同じであるが、開拓者の努力は容易のことではなく、この功績は互に忘れてはならないことである。

かくして東京都私立幼稚園協会も、ようやく軌道に乗り活潑に動き始めたのであるが、當時始められていた世界戦争は、益々苛烈になり、戦禍も拡大するに及んで、遂に昭和十九年には、緊急措置令と称する、幼稚園休園命令が出され、幼稚園は休園の止むなきに至り、又教育団体統制のため、本協会も解散を命ぜられることとなり、漸く私立幼稚園の一致團結の貴い機運が乗つて来た時に、戦争の復興を希望するの声となつた。十月十六日に中野感應幼稚園で準備会が開かれ、十一月一日芝の明徳幼稚園に、創立総会を開いた、理事長内山憲尚氏、常任理事青柳義智代氏、加藤武夫氏、櫻葉勇江が選出され、事務所は中野区宮前町四八に置くこととなつた。

という記事を見る時、その当時が忍ばれ、現在七五〇園を数える隆勢を思い、感慨無量なものがある。

戦後は民主主義国家となり、学校教育法が公布されるや、幼稚園はその第一条の学校として取扱われることとなり、統いて私立学校

法、私立学校振興会法、私立学校教職員共済組合法等が公布され、又下は幼稚園より、上は大学迄の私立学校的団体にも加盟することとなり、私立幼稚園も漸く一人前の学校となつたのである。

私立学校は自主性を高め、公共性をもつてするために、本協会の活動も中絶し、組織も終焉するの運命となつてしまつたのである。

戦は利あらず、敗戦に終り、戦後の東京都の私立幼稚園は、僅かに七十余園に激減してしまつた。然し私立幼稚園は終戦となるや、いち早く開園に努力し、漸次其の数を增加了。

過去十年の團結の基礎は、新たな力をもつて立ち上ることが出来、昭和二十二年には、本協会の組織も民主的に改め、自主的理事長制として、新たな構想のもとに、再発足をしたのである。

当時の『幼児の教育』誌上に

戦前三百の都下私立幼稚園を似て組織されていた東京都私立幼稚園協会は、幼稚園の休園措置によつて、自然解散の形であったが、終戦後復活開園されるところが次第に増加して、今日では七十園にもなり、猶統々と増加しつゝあり、しかも各幼稚園は、日本の新建設は幼児教育に在ることを認識し、その使命も重大性を感じると共に、一日も早く協会にその使命があり、民主主義の下に於ける教育は、私立学校こそ、その目的にそるものと確信しているのであるが、私立幼稚園に関しては、まだまだ色々打開して行かなければならぬ問題が山積しているのである。

幸にして、東京都私立幼稚園協会は創立二十周年を迎えることが

出来、去る十月二十四日には、椿山荘に於て、強き團結の下に、その記念式を盛大に催し、十一月七日には神宮外苑競技場に於て、二万名近くの参加を得て、体育祭が行われ、又十一月二十三日には中央大学講堂に於て、研究会を開催し、昭和三十二年二月六日より一週間、日本橋三越に於て幼児生活展覽会を催す等、夫々記念行事が行われるが、吾等はこの記念行事を機として、益々結束をかため、互に研鑽し、行政面に於ても、教育内容についても、打開すべきところは切り開き、進むべき処は前進し、私立幼稚園としての特色を生かし、その理想と使命を達成するために邁進すると共に、本協会の使命と、任務を明からにし、その遂行を期し、私立幼稚園発展のために、幼児教育向上のために資してこそ創立二十周年を迎える意義もあることと思う次第である。

